

国際力動的心理学療法研究会第20回年次大会
市民公開災害臨床プログラム
「災害臨床中長期の課題」

2014年11月22日 土曜日 17:00~19:30

場所：郡山市労働福祉会館 大ホール
〒963-8014 福島県郡山市虎丸町7番7号
参加費：無料（当日は日英中の通訳がつきます）
参加ご希望の方は、当日会場へ直接お越しください

震災関連死が、福島で1,700人を超えました。このことをどう理解し、対策を打てるのでしょうか。睡眠が浅い、酒が増えた、身体が重い、物忘れがひどい。暗闇を怖がり、知らぬ間に気力が途切れる子どもたちをどう理解し、どう愛することができるのでしょうか。あらゆる人災、自然災害後の心の復興が進まないのは明確な理由があります。それは、心の知と、それを実行する実践の智恵と、そして、それを共有して働き合う協働ネットワークが作れないことにあります。

今回は、昨年を引き続き、福島県郡山市を会場に、さまざまな人災、自然災害後の人の心の復興課題に取り組んできたエキスパートが集い、市民の方々と共に、大災害から数年を経た中長期の課題を明らかにするシンポジウムを開催します。3.11後を生きる当事者として、そして、これからの災害に備えて、一人一人に何ができるのか。政治家の先生に、行政の方に、ジャーナリストに、あらゆる専門家に、親御さんに、まだまだできることはたくさんあります。大震災後の福島、宮城、2008年の四川大地震後の心の復興リーダー、米国9.11テロ、戦争PTSDの対応してきた専門家に、日本の精神分析をリードしてきたトップアナリストを加えて、心の復興を勝ち抜く一歩を進めてみましょう。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。



お問い合わせ 国際力動的心理学療法研究会第20回年次大会 事務局

〒153-0041 東京都目黒区駒場2丁目8-9 PAS心理教育研究所内
Tel & Fax:03-6407-8201 メールアドレス: iadp@iadp.info
大会ホームページ: <http://www.iadp.info/>
大会会長 石川与志也 事務局長 花井俊紀

発題者



足立 智昭(博士) 宮城学院女子大学学芸学部教授

臨床発達心理士。宮城における震災後の心の復興のリーダーの一人。ライオンズクラブ心の復興プロジェクト震災復興心理・教育臨床センター代表（2011年9月設立・宮城学院女子大学内）を務める。宮城県子ども・子育て会議会長。



橋本和典(博士) 国際基督教大学准教授

福島県須賀川市生まれ。心理療法家（臨床心理士、全米公認集団精神療法師）。福島における震災後の心の復興のリーダーの一人。2013年9月、福島県郡山市に心の傷（トラウマ）・PTSD無料相談クリニック「福島復興心理・教育臨床センター」を立ち上げ、代表を務める。



平野幹雄(博士) 東北文化学園大学医療福祉学部准教授

仙台市出身。臨床発達心理士。宮城における震災後の心の復興のリーダーの一人。仙台市保育スーパーヴァイザー。

中国被災地復興心理学チーム

中国では、2008年の四川地震の後、周辺地域で大規模な地震被害が繰り返されている。同チームは国家アカデミーの中国科学院に所属し、被災地復興に向けた心理学的関与に取り組む専門家で構成されている。

司会



ラルフ・モーラ(博士)

米海兵隊のPTSD治療のエキスパート。アメリカ、ヨーロッパ、日本等において臨床活動を行ってきた。現在、レイノルド・アーミー・コミュニティ病院、クリニカルサイコロジスト。

コメンテーター



牛島定信(医学博士)

日本の精神医学における数々の重職を担ったリーダーの一人。三田精神療法研究所所長、精神科医。日本の抑うつ治療の第一人者である。



セス・アロンソン(博士)

9.11で子どもや青年の心の傷・PTSD対処の指揮を取ったリーダー。ニューヨークの伝統ある精神分析的心理療法の実践および訓練機関である、ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所のフェロー／ファカルティ／トレーニング・スーパーバイジング・アナリストである。



ハロルド・スターン(博士)

フィラデルフィアで35年に渡り、精神分析家として個人開業を営み、困難患者の治療を行う。また、ロシアのサンクトペテルブルク東欧精神分析研究所にて教育に携わっている。

ゲストコメンテーター



ヨタム・ポリッツェー

国際人道支援活動団体国際NGO団体IsraAID、アジア地域責任者。東日本大震災発生直後から現地にて支援活動を行う。その後、心の傷の回復・心の健康を支援するために、専門家を派遣し、定期的にワークショップを開催している。これまで宮城県・福島県の8都市で、特に子ども、若者、高齢者への支援に重点をおいて活動している。